

ご紹介いただきました、2016～2017年度IM第7組ロータリーデーの執行委員長を務めております、小八木規之でございます。

本日は松本ガバナーはじめ、IM第7組のロータリアン220名のご参加をいただき、本会を開催できますことを大変よろこんでおります。誠にありがとうございます。



本日は、「そこにある生命（いのち）より深く生きるために」をテーマとし、2部構成で、第1部を原純一先生による難病小児医療現場の現状などについてご講演をいただきます。

第2部として原先生に加え、こどもホスピスの現状について水谷綾TURUMIこどもホスピス事務局長のコーディネイトの下に高場TURUMIこどもホスピス代表理事、北東恭子様、前田優貴子様、中村剛様の5人をパネリストとしてお迎えしパネルディスカッションをお願いいたします。

2016から2017年度大阪南ロータリークラブでは、社会奉仕活動の一環としてローターアクト、インターアクトの皆さんと協力して、こどもホスピスでの秋祭を企画いたしました。そこで、終末期のもかかわらず、しっかりと生きておられるお子様たち、また保護者の方々の日々のご苦勞、TURUMIこどもホスピスにて従事されている常勤4名、非常勤7～8名の職員の方々の情熱に心を打たれました。

高齢者、いわゆる弱者には社会保障の対応も眼が向けられものの、難病に侵され終末期を迎えておられる子供さんたちは全国で2万人程度ため大きく取り上げられません。

イギリスにおいて1982年にスタートし、それなりに充実してきた世界の子供ホスピス状況に比べ、我が国のありさまは全く充分とは言えません。

全国に3か所しか未だその設備がない事、補助を受けることで行動の制約を受けるため補助金もなくすべて寄付で賄われている現状、その施設の維持には年間500万から600万円の費用がいること等、解決しなければならない問題は山積みにあります。

また、子供さん達、保護者の方々からは、家族の在り方、生きる事の素晴らしさ等を私たちが悟らされる面も多くあります。

こういった事柄を踏まえ、同情ではなく我々ロータリアンは何ができるのかを考えていただく機会となり、地区でもご検討いただければと期待申し上げ、本会を企画させていただきました。一度是非、TURUMIこどもホスピスをご訪問ください。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

それでは恒例により、ご講演をいただく原先生、パネリストの皆様のご略歴を紹介させていただきます。（別紙参照）

原先生、どうぞよろしくようお願いいたします。